

5. 結果概要

(1) 回収の状況

保険薬局調査の様式1の有効回収数(施設数)は944件、有効回収率は47.2%であった。
また、様式2に記載された有効処方せん枚数は435薬局分の7,076枚であった。

診療所調査の有効回収数(施設数)は733件、有効回収率は36.7%であった。

病院調査の有効回収数(施設数)は326件、有効回収率は32.6%であった。また、医師調査の有効回答人数は431人であった。

患者調査の有効回答人数は1,717人であった。

図表 1 回収の状況

調査区分	有効回収数	有効回収率
①保険薬局調査		
保険薬局数(様式1)	944	47.2%
様式2に記載された処方せん枚数(435薬局分)	7,076	—
②診療所調査		
一般診療所数	733	36.7%
③病院調査		
病院数	326	32.6%
④医師調査		
医師数	431	—
⑤患者調査		
患者数	1,717	—

(2) 保険薬局調査の概要

【調査対象等】

○調査票 様式1

調査対象：全国の保険薬局の中から無作為に抽出した保険薬局

回答数：944 施設

回答者：管理者

○調査票 様式2

処方せん枚数：7,076 枚（435 薬局分）

回答者：管理者

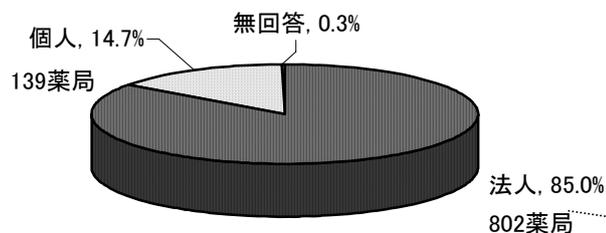
①薬局の属性

1) 組織形態

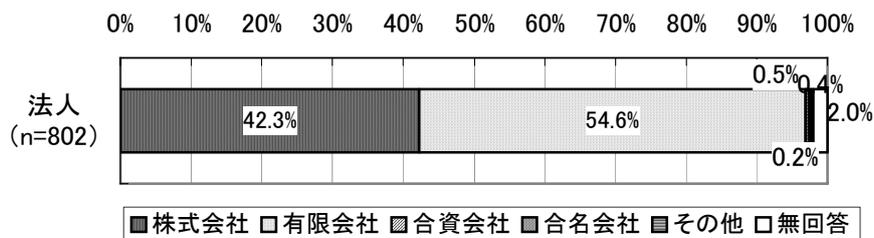
薬局の組織形態（法人・個人別）についてみると、「法人」が 85.0%、「個人」が 14.7%であった。

法人の種類は、「有限会社」（法人薬局の 54.6%）が最も多く、次いで「株式会社」（同 42.3%）であった。

図表 2 組織形態（法人・個人別）（n=944）



図表 3 法人薬局の内訳（n=802）



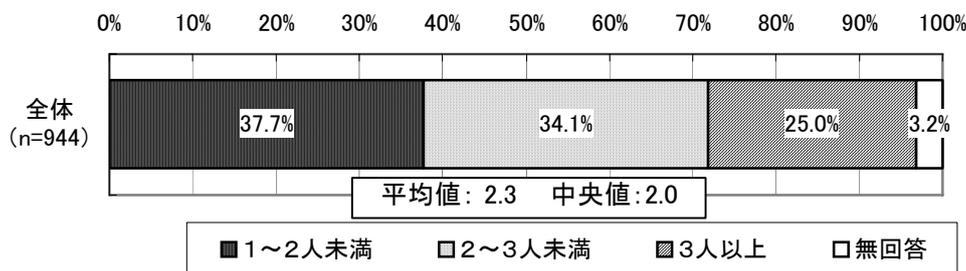
2) 職員数

i) 薬剤師

職員のうち、薬剤師の職員数（常勤換算）についてみると、「1～2 人未満」（37.7%）が最も多く、次いで「2～3 人未満」（34.1%）、「3 人以上」（25.0%）であった。

1 薬局あたりの職員数（常勤換算）についてみると、薬剤師の平均人数は 2.3 人（中央値 2.0）であった。

図表 4 薬剤師の職員数(常勤換算)



(注) 常勤換算は、次の計算式で算出した。また、常勤換算後の職員数は整数（小数点以下四捨五入）とした。

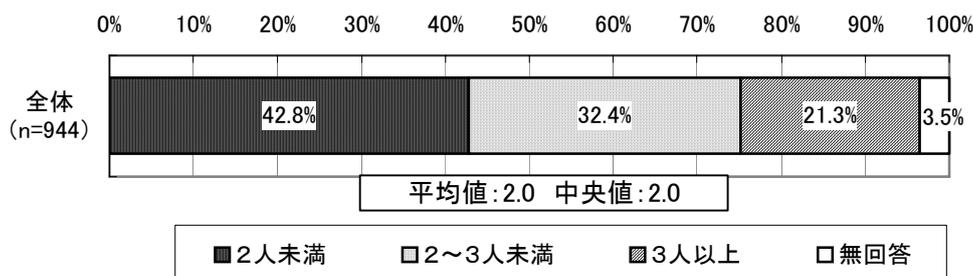
- ・ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (当該薬局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間)
- ・ 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (当該薬局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4)

ii) その他（事務職員等）

薬剤師以外のその他（事務職員等）の職員数（常勤換算）についてみると、「2 人未満」（42.8%）が最も多く、次いで「2～3 人未満」（32.4%）、「3 人以上」（21.3%）であった。

1 薬局あたりの職員数（常勤換算）についてみると、その他（事務職員等）の平均人数は 2.0 人（中央値 2.0）であった。

図表 5 その他（事務職員等）の職員数（常勤換算）

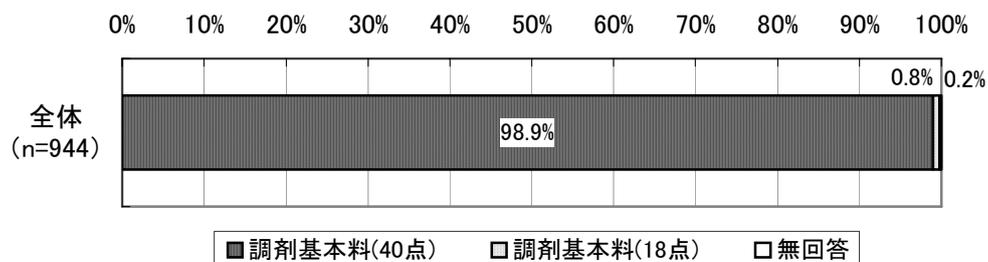


3) 調剤の状況等

i) 調剤基本料

調剤基本料についてみると、「調剤基本料（40点）」が98.9%、「調剤基本料（18点）」が0.8%であった。

図表 6 調剤基本料

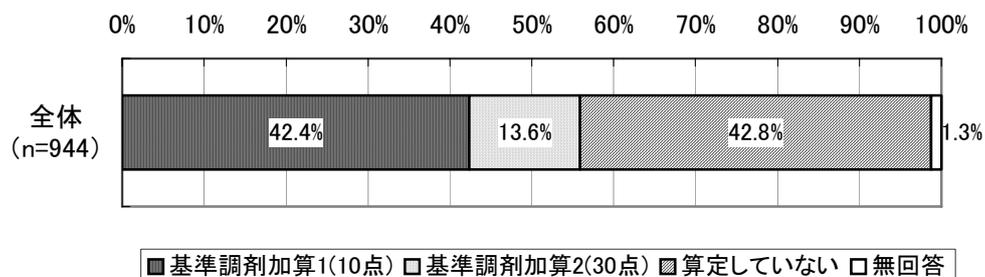


ii) 基準調剤加算

基準調剤加算についてみると、「基準調剤加算1（10点）」が42.4%、「基準調剤加算2（30点）」が13.6%であった。

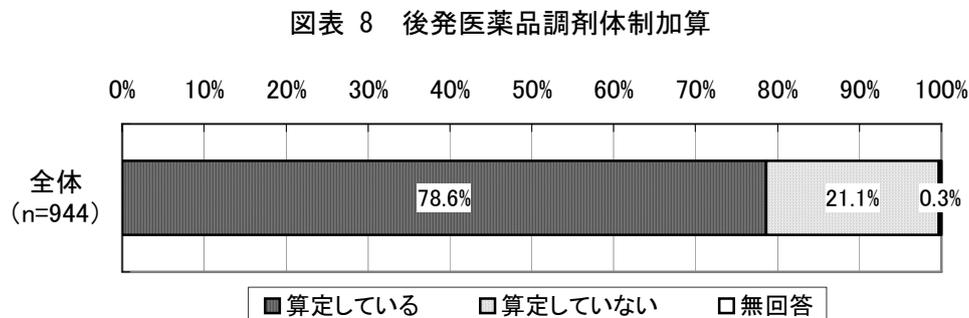
基準調剤加算を「算定していない」は42.8%であった。

図表 7 基準調剤加算



iii) 後発医薬品調剤体制加算

後発医薬品調剤体制加算についてみると、「算定している」が78.6%、「算定していない」が21.1%であった。



iv) 後発医薬品調剤率（平成 20 年）

平成 20 年 1 月から 12 月までの各月の後発医薬品調剤率をみると、わずかながらも増加傾向がみられ、「1 月」は平均値では 40.2%、中央値では 38.0%であったのが、「12 月」には平均値では 43.9%、中央値では 41.7%となった。また、標準偏差についても「1 月」は 17.8 であったのが「12 月」には 16.9 であった。

図表 9 後発医薬品調剤率（平成 20 年、n=843）

（単位：％）

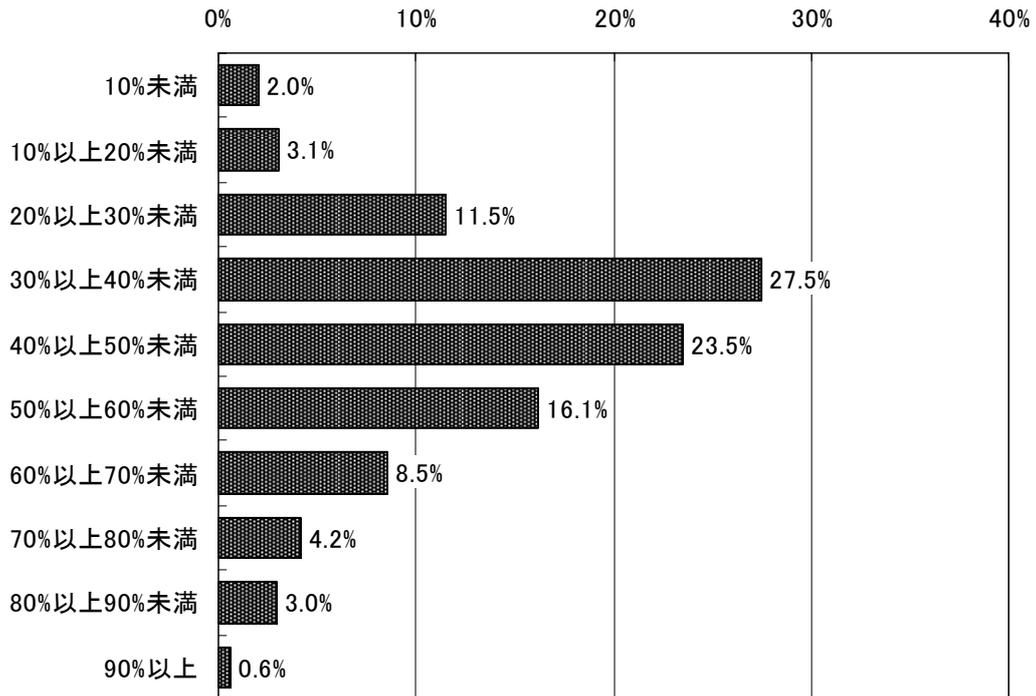
	平均値	標準偏差	中央値
1 月	40.2	17.8	38.0
2 月	40.7	17.7	38.0
3 月	40.4	17.4	38.0
4 月	41.7	16.9	39.3
5 月	42.1	16.7	39.9
6 月	41.7	16.5	39.2
7 月	41.8	16.5	38.9
8 月	41.7	16.5	38.8
9 月	42.2	16.8	39.2
10 月	43.1	16.9	41.0
11 月	43.5	17.0	41.3
12 月	43.9	16.9	41.7

（注）各月全てに回答があった施設を対象に集計した。

v) 後発医薬品調剤率別にみた薬局数の分布（平成 20 年 12 月）

平成 20 年 12 月における後発医薬品調剤率別にみた薬局数の分布をみると、「30%以上 40%未満」（27.5%）が最も多く、次いで「40%以上 50%未満」（23.5%）、「50%以上 60%未満」（16.1%）となった。

図表 10 後発医薬品調剤率別にみた薬局数の分布（平成 20 年 12 月、n=843）



4) 処方せん発行医療機関（平成 20 年 12 月）

i) 処方せん発行医療機関数

平成 20 年 12 月に薬局で受け付けた処方せんの発行医療機関数についてみると、1 薬局あたりの平均は 29.2 件であった。このうち「変更不可」欄に処方医の署名等が 9 割以上ある医療機関数は 7.0 件で、処方せん発行医療機関全体に占める割合は 24.0%であった。

図表 11 処方せん発行医療機関数

	医療機関種別									合計
	病院	診療所							歯科診療所	
		内科	小児科	外科	眼科	耳鼻咽喉科	精神科	その他		
処方せん発行医療機関数(施設)(A)	9.6	8.8	0.8	1.5	1.7	1.3	1.2	3.0	1.4	29.2
(うち)「変更不可」欄に処方医の署名等が 9 割以上ある医療機関数(施設)(B)	2.3	2.1	0.2	0.4	0.5	0.3	0.3	0.8	0.1	7.0
(うち)主として先発医薬品を銘柄指定している医療機関数(施設)	2.1	1.9	0.2	0.3	0.4	0.2	0.3	0.7	0.1	6.1
(うち)主として後発医薬品を銘柄指定している医療機関数(施設)	0.2	0.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.9
処方せん枚数(枚)	389.3	457.2	130.0	102.3	65.3	98.8	36.2	129.8	10.5	1,419.4
「変更不可」欄に処方医の署名等が 9 割以上ある医療機関数の割合(B/A)(%)	23.8	23.5	29.9	24.5	28.4	23.6	25.6	27.5	10.7	24.0
薬局数	588									

(注) すべての項目に回答のあった施設を対象に集計した。

ii) 処方せん枚数が最も多い 1 医療機関の取り扱い処方せん枚数

処方せん枚数が最も多い 1 医療機関の取り扱い処方せん枚数についてみると、1 医療機関あたりの平均処方せん枚数は 1,122.9 枚（標準偏差 919.6、中央値 999.0）であった。

図表 12 処方せん枚数が最も多い 1 医療機関の取り扱い処方せん枚数 (n=578)

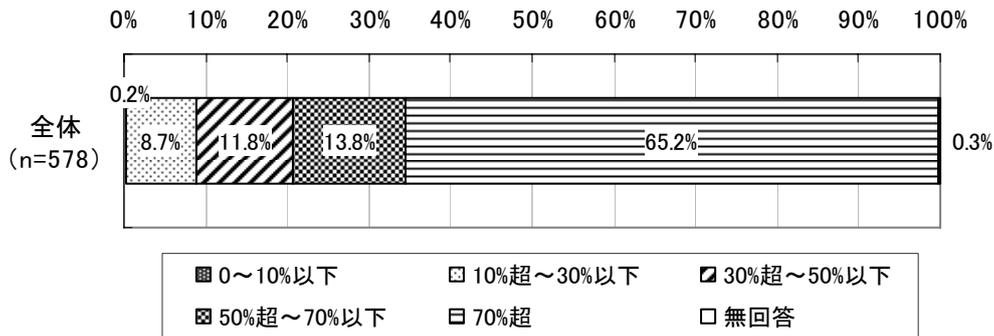
	平均値	標準偏差	中央値
処方せん枚数(枚)	1,122.9	919.6	999.0

(注) 処方せん枚数について回答のあった施設を対象に集計した。

iii) 特定の保険医療機関に係る処方せん割合（最も多いもの）

特定の保険医療機関に係る処方せんの割合（最も多いもの）についてみると、「70%超」（65.2%）が最も多く、次いで「50%超～70%以下」（13.8%）、「30%超～50%以下」（11.8%）、「10%超～30%以下」（8.7%）であった。平均は75.4%（標準偏差26.1、中央値88.5）であった。

図表 13 特定の保険医療機関に係る処方せん割合（最も多いもの）



(注) 特定の保険医療機関に係る処方せん割合は、次の計算式による。

$$\begin{aligned} & (\text{当該薬局で受付枚数が最も多い医療機関が発行した処方せんの受付枚数}) \\ & \div (\text{当該薬局での受付処方せん枚数の総数}) \end{aligned}$$

iv) 半径 200m 以内にある医療機関数

半径 200m 以内にある医療機関数についてみると、1 薬局あたりの平均医療機関数は 3.4 件（標準偏差 3.7、中央値 2.0）であった。

図表 14 半径 200m 以内にある医療機関数 (n=911)

	平均値	標準偏差	中央値
半径 200m 以内にある医療機関数(件)	3.4	3.7	2.0

(注) 回答のあった施設を対象に集計した。